



Flash News

〈フラッシュニュース〉

三重大学

第43号

目次

- 「フランダース・バイオクラスター-JAPAN ROADSHOW津」が開催
- 伊賀市との産学官連携による研究拠点設置に向けて始動
- シャープ(株)との環境報告書に関する意見交換
- 「硬式野球部」学長表彰
- 三重大学・百五銀行・百五経済研究所との産学連携記念セミナーを共同開催
- 工学部・工学研究技術部技術発表会開催

おしらせ

・総務部より

- 「青少年のための科学の祭典」第4回三重大学大会
- 防火訓練
- 国際交流センター交流会
- JICAプロジェクト「北部タイ省農薬適正技術計画」終了式開催
- フィールドサイエンスセンター設立5周年記念シンポジウムを開催

「フランダース・バイオクラスター-JAPAN ROADSHOW津」が開催

ベルギー・フランダース政府貿易投資局と医学部産学連携医学研究推進機構が共催した標記ワークショップ（企画担当：西村訓弘特命教授・同機構）が12月13日に総合研究棟Ⅱ第一会議室で行われました。亀岡理事（情報・国際交流担当）の開催挨拶の後、フランダース・バイオテクノロジー大学間研究所サイエンスアドバイザーのリーベ・オンゲナ博士と投資局ビジネス開発ダイレクターのディルク・デルイベル氏からフランダースのバイオ研究とベンチャーの紹介がありました。続いて、三重県健康福祉部薬務食品室メディカルバレー推進グループ副室長の増田直樹氏、みえ治験医療ネット常務理事の西川政勝氏などの取り組みが紹介され、参加した約30名の大学、県、企業関係者との活発な意見交換が行われました。



伊賀市との産学官連携による研究拠点設置に向けて始動

本学は伊賀市からの要請を受けて、同市における研究教育拠点の開設に向けた「三重大学伊賀拠点設置推進委員会」（座長：前田広人教授・生物資源学研究所）を平成18年6月に発足させ、研究活動の体制、研究テーマ、拠点維持の条件や問題点などについて検討を重ねてきました。「三重大学産学官連携セミナー2006 in 伊賀」の開催や三重県「知的財産活用・流通セミナー」への協力など様々な活動も行ってきました。伊賀市では、本学におけるこれらの取組を受け12月14日に市議会議員全員懇談会を開催しました。新聞報道によると、同市ゆめが丘に企業集積の利点を活かして、産学官連携の研究拠点（2階建て延べ床面積1,500㎡程度、建設費の約4億円は同市の合併特例債等から支出）を設置する意向が明らかにされました。今後、本学では同市の意向を受け具体的な検討を行っていくこととなります。

シャープ(株)との環境報告書に関する意見交換

11月29日、本学とシャープ(株)は、竣工・稼働したばかりのシャープ(株)亀山第2工場プレゼンテーションルームで、環境報告書に関する意見交換を主目的とする交流会を開催しました。本学から渡邊理事（総括環境責任者）、環境ISO推進室長：朴教授・人文学部など推進室のメンバー（教職員7名、学生委員7名）と、シャープ(株)から日下部所長、環境安全本部・谷口副本部長、CSR推進室スタッフなど6名による意見交換会では、本学が今年9月に公表した環境報告書に関してアドバイスを頂きました。また、シャープ(株)における環境の取組や亀山工場での環境保全の最先端の現状についてご説明いただいた後、最新鋭の第2工場で大型液晶テレビの生産部門を見学するなど、有意義な交流会となりました。これを契機に、同社との間で環境面における交流を継続・発展させていくことを確認しました。

「硬式野球部」学長表彰

本学硬式野球部は、東海地区大学野球秋季リーグ戦三重学生野球リーグで初優勝した後、東海地区大学野球秋季選手権大会で準優勝、第37回明治神宮野球大会東海・愛知大学連盟王座決定戦に出場するなど、快進撃を遂げました。惜しくも全国大会出場を逃しましたが、甲子園出場経験を持つ精鋭を集めた私立大学が活躍するなかで、本学の評価は極めて高く、今回その健闘を讃えて12月4日に学長表彰が行われました。



三重大学・百五銀行・百五経済研究所との産学連携記念セミナーを共同開催

本学は本年3月に㈱百五銀行および㈱百五経済研究所と産学連携に関する包括協定を締結し、大学の知的財産の地域企業への活用や、地域社会への情報の提供等、地域への貢献と成果の活用に連携して取り組んできました。この連携を記念して、11月27日、四日市都ホテルにおいて「産学連携記念セミナー～地域企業の発展に向けた大学と銀行の連携～」を開催しました。当日は150名の参加者を迎え、百五銀行の前田頭取、豊田学長の挨拶を皮切りに、連携の取組状況や中小企業基盤整備機構の紹介、また「中小企業は連携すると強くなる」と題した記念講演が行われ、産学連携の重要性とともに連携包括協定の意義を再認識する良い機会になりました。

工学部・工学研究科技術部技術発表会開催

10月16日、工学部において、標記発表会が開催されました。これは、技術職員の特別研修の一環として、平成元年からは毎年開催され、今回で15回目になります。発表会は、技術職員が職務上で得た技術的成果とともに、技術部各グループでの取組実績等も発表し、相互交流で互いの技術向上を図ることに主眼がおかれています。今回の発表件数は、他大学（静大、名工大）から2件、他学部・センターから3件を含め計15件の発表があり、活発な意見交換が行われました。また、発表会の前には、中村修平教授・大学院工学研究科の特別講演も行われました。

「青少年のための科学の祭典」第4回三重大学大会

標記大会（実行委員長：豊田学長）が12月2-3日に三翠ホールで開催されました。「科学の祭典」は全国的に開催されている科学啓発活動で、今回は大学教員と学生のボランティア、中学校教員や生徒の他、科学ボランティアや企業などから37ブースの出展がありました。2日間で2,256名の来場者があり、会場は熱気があふれていました。この大会を楽しみにしている子どもたちも多く、同伴の父兄からも継続してほしいという声も多いことから、地域に定着した科学イベントになってきたことを実感しました。



防火訓練

12月1日に本部事務局で、津市北消防署の協力のもと、標記訓練が行われました。今回の訓練では、火災発生時における職員の通報・連絡体制を確立と、避難時における迅速な対応の向上を図るため、通報・連絡、避難誘導、初期消火を中心に取り組み、午前10時、事務局4階福利厚生チームの「ガス湯沸かし器」からの出火を想定して実施しました。また、屋外では津市北消防署係員の指導で、消火器・消火ホースによる消火訓練および救助袋による脱出訓練を行い、訓練の重要性と日常における防災意識の向上を図ることができました。



国際交流センター交流会

12月11日、本学生協第1食堂において、国際交流センター交流会が開催されました。本学の留学生・留学生の指導教員・ESSなどの学生サークル・国際教育科目の受講生など約100名の参加があり、それぞれの国にちなんだ歌やダンスが披露され、楽しいひとときを過ごしました。国際交流センターでは、今後もこの催しを続けていく方針です。



JICAプロジェクト「北部タイ省農業適正技術計画」終了式開催

2003年から生物資源学研究科がチェンマイ大学、香川大学とともに実施してきた標記プロジェクトの終了式に、豊田学長、天野生物資源学研究科長他3名が出席しました。本プロジェクトは、タイ北部における省農業技術の開発とその普及を目的としたもので、本学からはこれまで延べ20人の教員が派遣され、プロジェクトの管理・運営、病虫害の診断、残留農薬分析および省農業技術の農民への普及とHPの作成（英語とタイ語）などの活動を支援しました。この活動の中で、省農業でも収量が減少しないこと、食の安全や省農業技術の農民への普及の方法が示され、高い評価を得ました。現在次期プロジェクトに向けて、引き続き協力を行っています。



フィールドサイエンスセンター設立5周年記念シンポジウムを開催

平成14年に設置された生物資源学研究科の附属紀伊・黒潮生命地域フィールドサイエンスセンターが、設立5周年を迎えました。これを記念して、12月14-15日にアスト津4階アストホールでシンポジウムを開催しました。初日は、亀岡理事（国際交流担当）の開会挨拶に続き、海外からの研究者を招いた講演とパネルディスカッションが行われ、2日目は附属施設農場で、京都大学の田中耕司教授による基調講演の他、大原センター長の共同研究発表および技術職員による技術報告会が行われました。

お知らせ

ー総務部よりー「学長サロン」へようこそ

学長と教職員がフランクに話し合える場として第5回目の「学長サロン」を開催いたします。今回は、新年会も兼ねており、多くの教職員の皆さんといろいろなお話をしたいと思っております。ふるって、ご参加ください。

日時：1月11日（木）17:30～19:00 場所：生協 パセオ 飲食物等：缶ビール ソフトドリンクは実費負担（おつまみ、ウーロン茶は学長提供）

*なお、ご参加いただける方は事前に総務部総務チーム (somusomu@abmie-uac.jp)までメールにてご連絡願います。

投稿のお願い

各種事項（大学教育・研究、地域連携、国際交流、学内事業等）に関するフレッシュなニュース提供をお待ちしています。

亀岡孝治 (vpre-info@mie-uac.jp)または井上真理子 (mariko-i@ab.mie-uac.jp)まで。場合によっては、取材に向きます。

《フラッシュニュースのバックナンバーは、三重大学ホームページで(<http://www.mie-uac.jp>)ご覧いただけます。》 編集責任者 / 理事・副学長 渡邊悌爾